

# 関西医科大学 広報

## 関医タワー上空を舞う ブルーインパルス



大阪・関西万博2025のために飛来

Vol.71

### CONTENTS

法人：理事長再任のご挨拶

P.1

トピックス：令和7年度オープンキャンパス

P.6

トピックス：大阪・関西万博への出展

P.6

大学：サン・カミッロIRCCS病院との共同ハブ開設

P.10

大学：第9回学術祭・ひらかた市民大学

P.11

大学：学長座談会

P.20

## 就任挨拶

## 医学部麻醉科学講座総合集中治療部（附属病院）担当診療教授 梅垣 岳志



本年8月1日付で、麻醉科学講座総合集中治療部（附属病院）担当診療教授を拝命いたしました梅垣と申します。これまでお世話になりました関係各位の皆様は、心より御礼申し上げます。

私は平成15年に関西医科大学を卒業後、母校の麻醉科学講座に入局し、麻醉・集中治療を中心に診療を行い、教育、研究にも携わってまいりました。諸先輩方をはじめ、多くの皆様の御指導・御支援を受け、日々成長の機会をいただけたことに深く感謝しております。

集中治療の現場は、患者さんご家族、多職種の医療者が一丸となって治療に臨む領域であり、互いの信頼と協働が欠かせません。これまで培った経験を基に、診療の質向上、将来を担う集中治療専門医を継続的に育成できる環境づくりに努めてまいります。

研究面では、医療経済学分野におけるビッグデータ解析から歩みを始め、現在も大規模データを活用した研究を継続しています。統計解析の知見は臨床の改善に寄与するだ

けでなく、多くの診療科の先生、研修医、学生の方々などとの繋がりの一歩となり、その繋がりは私にとって大きな財産です。

私の立場として集中治療のみならず麻醉にも尽力することが求められていると理解しています。今後も微力ながら、本学における麻醉・集中治療の発展に尽力し、診療・研究・教育の三本柱を通じて社会に貢献していく所存です。引き続き、皆様の御指導と御鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 略歴

平成15年3月	関西医科大学卒業、麻醉科学講座入局
平成15年5月	関西医科大学附属滝井病院 麻醉科 研修医
平成17年6月	関西医科大学附属滝井病院 麻醉科 医員
平成18年1月	関西医科大学 麻醉科学講座 助教
平成19年4月	倉敷中央病院麻醉科シニアレジデント
平成24年3月	京都大学大学院修了 医学博士号取得(医療経済学分野)
平成24年4月	関西医科大学 麻醉科学講座 助教
平成29年4月	関西医科大学 麻醉科学講座 講師
平成29年4月	関西医科大学附属病院 総合集中治療部 副部長
令和4年4月	関西医科大学附属病院 病院准教授
令和4年5月	関西医科大学麻醉科学講座 准教授
令和6年4月	関西医科大学附属病院 病院教授
令和7年8月	関西医科大学麻醉科学講座総合集中治療部（附属病院）担当診療教授

## 医学部呼吸器腫瘍内科学講座（総合医療センター）担当診療教授 本津 茂人



令和7年8月1日付で、関西医科大学総合医療センター呼吸器腫瘍内科診療教授を拝命いたしました。平成11年に奈良県立医科大学を卒業後に、同第二内科に入局し、平成13年より木村弘前教授が着任され、呼吸器疾患の診療、研究、教育をご指導いただきました。平成14年から平成16

年に東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教室に特別研究生として国内留学させていただき、基礎研究に従事いたしました。一般病院の勤務を経て、平成19年に帰学し、平成20年からは、放射線腫瘍医学の特任教員として、肺癌の化学放射線療法、緩和照射の診療にも携わりました。平成26年からは内科学第二講座に戻り、平成30年より室繁郎教授の着任に伴い、呼吸器内科学講座へ名称が変更され、講師、准教授として呼吸器疾患の診療、教育、研究を行ってきました。呼吸器疾患全般の診療経験があり、特に肺癌を専門的に診療してまいりました。当科では肺癌を中心に

胸部腫瘍性疾患全般の診断、治療を行います。病気の状態により、手術、放射線、抗がん剤または、それらを組み合わせた治療を選択します。肺癌は、脳、肝臓、骨など全身に転移する可能性があり、全身を診て治療方針を決めていく必要があります。また、高齢化に伴い併存症のある患者さんも増加しております。呼吸器外科、放射線科など色々な診療科と協力しながら、一人ひとりの患者さんに最適な治療を届けるため、全力で取り組みます。よろしくお願いいたします。

## 略歴

平成11年3月	奈良県立医科大学卒業
平成11年4月	奈良県立医科大学附属病院 第二内科研修医
平成14年4月	東京大学大学院医学系研究科 特別研究生
平成17年4月	星ヶ丘厚生年金病院(現 星ヶ丘医療センター) 呼吸器科 医員
平成19年4月	奈良県立医科大学 内科学第二講座 医員
平成20年10月	奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学 特任助教
平成22年4月	奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学 特任講師
平成26年10月	奈良県立医科大学 内科学第二講座 学内講師
平成28年7月	奈良県立医科大学 内科学第二講座 講師
令和5年4月	奈良県立医科大学 呼吸器内科学講座 准教授
令和7年8月	関西医科大学総合医療センター 呼吸器腫瘍内科 診療教授



## 令和7年度オープンキャンパス

### 医学部 枚方キャンパス

医学部オープンキャンパスでは、全体説明会場の加多乃講堂で、医学部金子一成学部長による学部長挨拶や入試センター中川淳センター長による入試概要説明、在学生トークイベント、本学医学部乳腺外科学講座高田正泰教授による模擬講義が行われました。シミュレーションセンターでは医師・在学生の説明で機器体験が行われ、特にロボット手術・VR体験が賑わっていました。

その他、在学生が案内するキャンパスツアーや、個別相談、学食無料体験といったプログラムも実施され、両日合わせて1,100名を超える参加がありました。

7/20(日) 8/2(土)



シミュレーション機器を体験する参加者

### 看護学部 枚方キャンパス

看護学部オープンキャンパスでは、医学部棟加多乃講堂での学部ガイダンスや入試・進路ガイダンス、看護学部棟での保健師・助産師のお仕事紹介、在学生と卒業生リアルトークライブ、高機能シミュレータ実演や高齢者疑似体験などが行われました。在学生と卒業生リアルトークライブでは、本学を選んだ理由、大学生活や実習に関する在学生のリアルな声に、参加者が熱心に耳を傾けていました。

キャンパス・病院見学ツアーでは学生スタッフがツアーガイドを担当し、学内の様々な施設の特長を紹介しました。また、シミュレータ体験においても、学生スタッフがシミュレータごとの違いやシミュレーション方法を説明。参加者は採血の練習をしたり、聴診器をつけてシミュレータの心音を聞いたり、瞳孔の様子を確認したりするなど、様々な体験を行っていました。

4/20(日) 7/13(日) 8/3(日) 8/17(日)



シミュレータの心音を聞く参加者

### リハビリテーション学部 牧野キャンパス

リハビリテーション学部オープンキャンパスでは、学部紹介や担当教員によるミニ講義に加え、在学生が入学後の学生生活について自身の経験談を交えながら語る学生インタビューや学内施設を案内するキャンパスツアーが実施されました。その他にも、テーピングや筋肉の機能体験、先端テクノロジー体験、子どもの作業療法体験や神経心理検査体験など、それぞれの学科で模擬体験のブースが開設され、在学生とコミュニケーションをとりながら笑顔で体験する参加者の姿が見られました。

4/27(日) 6/15(日) 7/27(日) 8/17(日) 9/14(日)



筋肉の機能について体験する参加者

## 大阪・関西万博への出展

8月18日(月)～21日(木)の4日間、大阪・関西万博イタリアパビリオンでイタリアのデザイン会社Italdesignとのコラボ出展を行いました。

医工学センタージュセッペ・ペッツォッティセンター長・学長特命教授は、YKK株式会社とのオーラルヘルスケア分野に関する共同研究の開始を案内するメッセージ動画を公開。

医学部リハビリテーション医学講座長谷公隆教授、リハビリテーション学部作業療法学科橋本晋吾助教らは、複合現実(Mixed Reality)やマーカーレス3次元動作分析を活用した新しいバランス測定システムについてデモンストレーションを行い、多くの来場者の閲覧を得ました。

今回の出展は、医工学センターのメッセージ動画を

Italdesign社が手掛けたことと、本学リハビリテーション学部・医学部で開発した複合現実を用いたリハビリ機器のグラフィックを同社から提供された関係から実現しました。



バランス測定システムデモンストレーションの様子

## 「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学の未来のため、学生の学びのために、皆様のご協力をお願い申し上げます。

### 令和7年度募集要項

令和7年度募集要項		募金のお手続き	
募集主体	学校法人関西医科大学	<div> <div>申込書提出</div> <div>お振込み</div> <div>確定申告</div> </div>	募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。 ・申込書はホームページに掲載しております。
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他		募金専用口座へお振込みください。 ・三菱UFJ 銀行 守口支店 普通 1312088 ・りそな銀行 守口支店 普通 0588884
募集期間	令和8年3月末日まで		確定申告いただくと所得税が減税されます。

この募金の応募は任意です。

#### 【お問い合わせ先】

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL : 072-804-2146 FAX : 072-804-2344

メール : bokin@hirakata.kmu.ac.jp

HP : <https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>

### 税制優遇措置のご案内

#### 個人の場合

課税所得額からの控除（所得控除）、または所得税額からの控除（税額控除）、いずれかの選択となります。

#### 【所得控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額が、課税所得額から控除されます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} = \text{所得控除額}$$

#### 【税額控除】

年間の寄付金額（所得の40%が限度）から2千円を差し引いた額の40%相当額が、所得税額から控除されます。ただし、所得税額の25%が限度です。

$$\left[ \begin{array}{|c|} \hline \text{寄付金額} \\ \hline \text{(年間所得合計額の40\%が限度)} \\ \hline \end{array} - 2,000\text{円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} \\ \text{(所得税額の25\%が限度)}$$

確定申告により所得税が還付されます

#### 法人の場合

#### 【受配者指定寄付金】

寄付金全額が当該事業年度の損金に算入できます。

日本私立学校振興・共済事業団を通し、本学を受取先に指定してご寄付をしていただく制度です。





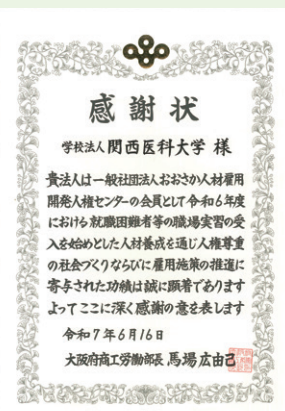
## 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

大学	7月3日	第2回国際交流セミナー	 イタリア人学生団体の本学訪問
	7月3日	国外臨床実習成果報告会	
	7月10日	学生・看護職交流会	
	7月13日、8月3日、8月17日	看護学部オープンキャンパス	
	7月19日	医学部6学年臨床実習後 OSCE	
	7月19日	夏休み子ども企画	
	7月20日、8月2日	医学部オープンキャンパス	
	7月20日	イタリア人学生団体の本学訪問	
	7月25日	アイルランガ大学来訪	
	7月26日	関西ネットワークシステム定例会	
	7月27日、8月17日	リハビリテーション学部オープンキャンパス	
	8月2日	常翔啓光学園高大連携事業	
	8月3日、8月31日、9月28日	作業療法学科オープンラボ	
	8月5日	看護学部4年次生卒業前 OSCE	
	8月8日	グラスゴー大学留学生修了証授与式	
	8月8日	看護学部国家試験応援会	
	8月18日～21日	大阪・関西万博への出展	
	8月25日～28日	サン・カミッロ IRCCS 病院との共同ハブ開設・サマースクール	
	9月5・6日	大学院医学研究科リトリート	
	9月13・14日	研究医養成コースコンソーシアム合宿	
	9月18日	関西公立私立医科大学・医学部連合国際交流会	
	9月20・21日	第9回学術祭・ひらかた市民大学	
	9月20日	リハビリテーション学部病院見学会	
	9月26日	令和7年9月度大学院看護学研究科学位授与式	
	9月26日	全国医学部国際交流協議会	
	9月30日	令和7年9月度大学院医学研究科学位記授与式	
附属病院	7月22日	沖縄美ら海水族館遠隔授業	 関西公立私立医科大学・医学部連合国際交流会
	7月25日	一日看護師体験	
	8月20日	こども病棟夏祭り	
総合医療センター	9月6日	腎移植患者会	 沖縄美ら海水族館遠隔授業
	7月31日・8月1日	滝井セミナー	
	7月29日、8月19日、9月18日	ミニ市民健康講座	
くずは病院	9月6日	市民健康講座	
	8月30日	市民公開講座	
卒後臨床研修センター	7月6日	レジナビフェア 2025 大阪	
	8月5日、8月12日	令和8年度臨床研修医採用試験	
	8月16日	令和8年度研修歯科医採用試験	
看護キャリア開発センター	7月16日	実地指導者研修	
	7月19日	KMU ナースの集い	
オール女性医師キャリアセンター	7月4日	第3回医師キャリア支援のための交流会	

## 大阪府商工労働部長から感謝状受領

この度、本学の人材開発部 障がい者雇用推進課が、大阪府商工労働部長から感謝状の授与を受けました。今回の感謝状受領は、本学が、一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター（C-STEP）の会員として、令和6年度における就職困難者等の職場実習の受け入れをはじめとした人材養成を通じ、人権尊重の社会づくりならびに雇用施策の推進に寄与した功績を評価されたものです。

同課では、学内受託業務を推進しておりますので、お気軽にご相談ください。（スポット作業もお引き受けしております。）



## 医 国外臨床実習成果報告会

7月3日(木) 17時15分から、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、国外臨床実習成果報告会が開催され、約170名が参加しました。木梨達雄学長による開会挨拶の後、アメリカ、リトアニア、ドイツ、スコットランド、マレーシア、カナダなど様々な国で臨床実習を体験した6学年生たちが、現地で体験した実習や学んだこと、体感した文化の違い、余暇の過ごし方などについて、英語で報告。「留学に参加したことで貴重な学びが得られた」「是非後輩の学生にも留学を勧めたい」などと語りました。

続いて、国際化推進センター友田幸一センター長が留学奨学金の「前田慶子賞」を紹介し、留学を奨励。医学部金子一成学部長が学生たちの成果を労い「来年度は日

本と異なる医療保険の制度についても研究を期待したい」と総評を述べ、英語教室ラウル・ブルーヘルマンズ教授による閉会挨拶で、報告会は幕を閉じました。



国外臨床実習の成果を報告する学生

## 医 令和7年度研究医養成コースコンソーシアム合宿

9月13日(土)13時から、ホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)において研究医養成コースコンソーシアム合宿が開催され、本学および連携大学のうち5大学の学生・教職員合わせて66名が参加しました。

1泊2日の合宿形式で、1日目には学生によるポスター発表と教員を交えてのグループワークが行われました。夕食時のポスター発表表彰では木梨達雄学長から表彰者3名に賞状が手渡され、本学からは、医学部3学年・藤本晶巳さんがベストプレゼン賞を受賞しました。2日目は表彰された学生3名による口頭発表とグループワーク発表、参加教員による講演が行われ、それぞれの大学の研究や研究体制について、最後まで活発な意見交換が行

われました。日頃の研究や活動を語る絶好の場として、参加した学生らが交流を深める様子が見られました。



ポスター発表の様子

## 医 大学院医学研究科リトリート

9月5日(金) 14時から6日(土) 11時50分まで、ホテルフクラシア大阪ベイ(大阪市住之江区)で大学院医学研究科リトリートが開催され、医学研究科大学院生と教員あわせて107名が参加しました。選択必修コース(がん研究コース、人体の構成と疾患研究コース、臨床・疫学研究コース)ごとに博士課程3～5学年の大学院生が研究中間発表を行い、大学院生と教員の投票に基づき各コースの優秀賞(1位・2位)が表彰されました。また、2日目には教員、大学院生が合同でワークショップ(FD研修)を行い、「大学院生の研究の充実」をテーマに現在の状況や今後の課題について議論を交わしました。

### 【研究中間発表優秀賞】

- がん研究コース
  - 【1位】3学年 生駒 龍興さん
  - 【2位】3学年 福井 研太さん
- 人体の構成と疾患研究コース
  - 【1位】3学年 Nguyen Thi Thanh Tuyenさん
  - 【2位】3学年 金川 竜也さん
- 臨床・疫学研究コース
  - 【1位】3学年 池田 宗平さん
  - 【2位】3学年 Payanglee Kolipさん



リトリート集合写真



## サン・カミッロIRCCS病院（イタリア）との共同ハブ開設

8月25日(月)から28日(木)にかけて本学およびヴェネツィア・カフォスカリ大学、サン・カミッロIRCCS病院、フェッラーラ大学医学部は合同でサマースクール(BioMed 2025)が各大学・病院にて実施されました。期間中、サン・カミッロIRCCS病院において、共同ハブのオープニングセレモニーが挙行されました。本共同ハブにはWeb会議の設備やデスク、ソファが備え付けられ、神経リハビリテーション分野等における共同研究の推進ならびに医療分野における学生・教員の研修や研究を目的として本学教職員・学生が使用する予定です。

サン・カミッロIRCCS病院、ヴェネツィア・カフォスカリ大学、フェッラーラ大学の3機関からなるコンソーシアムと本学は、令和8年度からダブルディグリー制度の実施を予定しており、教育や国際共同研究を行う拠

点としての機能も担います。ヴェネツィア・カフォスカリ大学との共同ハブをそれぞれの大学キャンパスに設置しており、本共同ハブは、本学にとって2つ目の国際拠点になります。教職員ならびに学生の積極的な利用が期待されます。



集合写真

## アイルランガ大学（インドネシア）と学術交流協定締結

7月25日(金) 10時から枚方キャンパス医学部棟13階第一応接室において、アイルランガ大学(インドネシア)と本学との間で学術交流協定書の調印式が行われました。アイルランガ大学は、ジャワ島東部に本部を置く1954年創立の国立大学で、医学部や法学部など16学部を有します。同大学医学部スリスティアワティ副学部長、同国際部アスラ部長らが来学し、本学からは木梨達雄学長、国際化推進センター友田幸一センター長、西山利正名誉教授が出席。両大学の紹介や意見交換の後、協定書の調印が行われました。その後、同大学からの大学院生が在籍する微生物学講座研究室や附属光免疫医学研究所などを見学しました。



調印書を手にする木梨学長(前列左)とスリスティアワティ副学部長(前列右)

## 第2回国際交流セミナー

7月3日(木) 16時40分から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、本学看護学部が交流協定を結んでいるアメリカ合衆国ミネソタ州立大学マンケート校で、認知症ケアを専門とされるSabrina Ehmke先生を講師に迎え、第2回国際交流セミナーが開催されました。Ehmke先生は、「Dementia Friends(※認知症の方々が尊厳と尊重を持って生活できる社会の実現を目指すグローバルな活動)」をテーマに、認知症に関する5つの重要なメッセージ、認知症と生きる方々への実践、認知症に配慮した社会にするための取り組みなどを紹介しました。

講演後に同会場で行われた交流会では、聴講した看

護学部生からEhmke先生にたくさんの質問が寄せられ、流ちょうな英語で和やかに歓談の様子が見られました。



Ehmke先生の講演の様子

看



## 第9回学術祭

9月20日(土)、21日(日)、枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、「第9回学術祭」が開催されました。これは、本学における研究のさらなる発展を目的とした学術的な取り組みで、今年で9回目の開催となりました。初日は木梨達雄学長による開会の辞で幕を、両日とも多くの参加者が訪れました。

### 第9回学術祭

#### ■三学部合同シンポジウム

##### 「国際交流を通じた新たな“知”の創造についての取り組み」

医学部リハビリテーション医学講座長谷公隆教授が座長を務め、医工学センタージュセッペ・ペッツォッティ学長特命教授による基調講演ののち、医学部、看護学部、リハビリテーション学部の3名のシンポジストによって「国際交流を通じた新たな“知”の創造についての取り組み」をキーワードとした演題が発表されました。

#### ■KMU研究コンソーシアム

長谷教授が座長を務め、6名の演者から、取り組んでいる研究の概要が発表されました。

#### ■ランチョンセミナー

医学部神経内科学講座薬師寺祐介教授が座長を務め、けいめい記念病院岡原一徳副院長による講演が行われました。

#### ■「医学会賞応募演題」

7名の演者による口演が行われました。

受賞者は令和8年4月発行予定の「広報Vol.73」にてご紹介する予定です。

#### ■「ポスター発表」

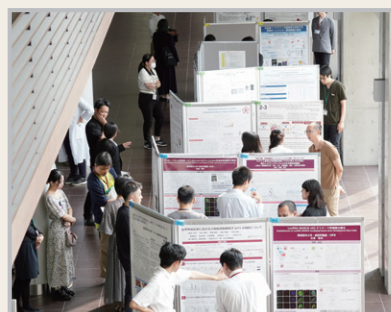
エントランスホールにて、若手研究者や留学生、大学院生、研究医養成コース学生ら33名による「ポスター発表」が行われました。研究分野の枠を越えた質疑応答や意見交換が行われ、研究の展望を熱く語る参加者の様子が見られました。



開会の辞を述べる木梨学長



ベッツォッティ学長特命教授による基調講演



ポスター発表の様子

### ひらかた市民大学

9月21日(日)には看護学部基礎看護学領域山本加奈子教授「今こそ考えようー震災から生きのびるための備えー」の講演が行われました。

このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会および枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているもので、枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。講演では、被災による生活の変化と災害関連死、災害時でも使用可能なものを日常生活に取り入れる「フェーズフリー防災」などが解説され、講演終了後には活発な質疑応答が行われました。



フェーズフリー防災の例を紹介する山本教授

## 令和7年9月度 大学院医学研究科学学位記授与式・大学院看護学研究科学学位授与式 医 看

9月30日(火) 15時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、「令和7年9月度大学院医学研究科学学位記授与式」が挙行されました。式には木梨達雄学長をはじめ大学院医学研究科金子一成研究科長・副学長らが列席し、課程博士4名、論文博士5名に博士(医学)の学位記が授与されました。

その後の学長式辞では、学位取得者の努力が労われ、今後の活躍を期待しての激励の言葉が贈られました。また、授与者代表からは、指導教員や関係教職員のサポートに対する感謝と医学博士号授与者としての決意が述べられました。

また、9月26日(金) 11時から枚方キャンパス看護学部棟2階講義室1において、「令和7年9月度大学院看護学研究科学学位授与式」が挙行されました。式には、木梨達雄学長、大学院看護学研究科加藤令子研究科長らが列席。学位記が博士前期課程の修了生2名、博士後期課程の修了生1名に授与されました。つづいて木梨学長の告辞、加藤研究科長からの祝辞が述べられ、修了生たちの学位取得の努力を労い修了後の新たな一歩を祝福する言葉が贈られました。



学位記を手を持つ修了生(医学研究科)



謝辞を述べる修了生(看護学研究科)

## 常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業 看

看護学部、リハビリテーション学部は令和5年度から常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業を推進し、中学生・高校生のキャリア形成を応援しています。

看護学部での受け入れとなる今回は、8月2日(土) 9時30分から、枚方キャンパス看護学部棟において体験授業が実施され、同高等学校の生徒19名が参加しました。生徒たちはオリエンテーションの後、一次救命処置、高機能シミュレータ、沐浴体験、高齢者体験などに取り組みました。本学の教員のアドバイスを受けながら、興味深そうに体験する姿が見られました。



シミュレータで瞳孔反射を確認する生徒たち

## 看護学部園田講師が感謝状を受賞 看

看護学部母性(助産)看護学領域園田希講師が、人命救助を行い、豊中市消防局から感謝状を受賞しました。

4月12日(土)、園田講師が車に乗車中、路上にて倒れている男性を発見し声をかけたところ反応がなく、心肺停止状態であったため、直ちに応急手当を開始。その場に居合わせた方々との協力により119番通報や胸骨圧迫、AEDの装着が実施されました。救急隊が到着したときには、男性の心拍は再開しており、医療機関へ搬送され、一命を取り留めました。

救護にあたった園田講師は「今回の出来事では、居合わせたすべての方の迅速な行動があってこそ、救命につながりました。誰か一人が欠けても成し得なかった、まさに連携の力が発揮された瞬間でした。」と語りました。





## 研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

## ネパール農村から始まる女性の健康格差研究

— 持続可能な健康格差縮小を目指して —

看護学部母性（助産）看護学領域 酒井ひろ子 教授

### —研究を始めたきっかけを教えてください。

平成18年、10年以上続いた内戦が終結した翌年、JICA（独立行政法人国際協力機構）草の根技術協力事業の一員としてネパールの農村部や山岳地を訪れました。村人の出産は当時、医師が不在のヘルスポスト（行政が運営する村の保健施設）で行われており、私たちは現地の伝統的助産師や看護補助者を対象に、滅菌・感染予防、異常分娩の早期察知、緊急搬送の判断といった安全な出産技術の教育に取り組みました。活動中、現地の女性と生活を共にし、カースト制度や家父長制の下で女性は教育・職業・結婚において自己決定権を持てず医療アクセスや健康行動の制約につながっていることを知りました。その結果、妊娠・出産におけるリスクが高まり、周産期死亡率の高さが持続している現実に直面しました。この経験が、「女性が自らの人生と健康を守る選択肢を持ちにくい」という社会的課題を探究する出発点となりました。

### —これまでどのような研究をされてきたのでしょうか？

平成24年～平成26年には神戸常盤大学・神戸大学が主体で実施された、カスキ郡（ネパール）のライフラインが未整備な村で住民主体による砂ろ過装置の設置に参画しました。下痢症罹患率は約60%減少し、低栄養の改善もみられました。さらに、水場が村内に整備されたことで女性は水汲み労働から解放され、教育や地域活動に時間を充てられるようになり、生活の質の向上に加えて社会的役割の拡大やジェンダー平等の推進につながる可能性が示されました。

平成28年～令和元年には「Double Burden of Malnutrition（低栄養と過栄養の併存）」に焦点を当て、妊婦から高齢者までを対象とした栄養改善・生活習慣病予防プログラムを実施しました。妊娠期の栄養介入は胎児発育を改善し、低出生体重児の減少につながる可能性が示されました。また、女性自身の健康観の向上が家族全体の食習慣や栄養改善とも関係しており、一時的な効果にとどまらず、次世代の健康課題の予防に資することが示唆されました。

平成30年～令和元年には、識字を持たない妊婦を対



象に、絵とノモグラム（確率などの計算を可視化するための図表）を用いた母子健康手帳を現地の助産師と協働で開発し、教育プログラムの効果を実験で検証しました。その結果、妊婦の平均Hb（ヘモグロビン）値の上昇、貧血有病率の低下、低出生体重児割合の減少がみられました。従来の文字中心の教育では届きにくかった層にまで効果が及んだことは、ヘルスリテラシーの発展や行動変容の持続に寄与することを示唆しています。

### —研究の成果や社会的意義について教えてください。

ネパール女性の栄養課題は過去20年以上大きな改善がみられず、教育改革（平成21年）や鉄・葉酸サプリメント配布政策（平成22年全国導入）だけでは十分ではないことが明らかになりました。一次研究の成果は一定の効果を示すものの、国全体の統計は依然として深刻な水準にとどまっています。こうした背景から、文化的・社会的要因を踏まえた行動変容理論に基づく、体系的で持続可能な介入の必要性を認識しました。

令和5年からは関西医科大学がボカラ大学・アンナプルナ行政村と連携し、思春期女性のアイデンティティ形成期における自己決定支援を含む栄養介入を展開しています。ネパールでは10代妊娠率が高水準にあり、妊娠前（プレコンセプション）ケアの重要性が改めて示されています。本研究では、栄養改善を入り口として女性の健康観やセルフケア力を高め、自己決定を支えるエンパワメントを目指しています。介入効果は一律ではなく、対



象者の機能的リテラシーや主観的規範の強弱によって効果の大きさが直線的ではなく非線形に変動することを明らかにしネパール保健研究協議会に報告しました。現在、この知見を踏まえ、カトマンズ大学の研究者と協働して全国規模のクラスター無作為化比較試験へ発展させる計画が進んでいます。

令和5年には一般社団法人USHA JAPANを設立しました。ネパール人女性の意志決定支援を基盤とし、特定技能外国人候補者を現地で直接選拔し、日本社会へ送り出す仕組みを整えました。入国前後の生活・キャリア支援に加え、性と生殖の健康教育やメンタルヘルス支援を行い、若年移民が直面しやすいリスクの予防に取り組んでいます。これらの活動は、研究と社会実装をつなぐ試みとして位置づけられます。

### —今後の展望について教えてください。

これまでの研究と実践は、「ネパール農村」と「日本社会」を往復しながら積み重ねてきました。健康課題は国境を越えて共通しており、文化や社会の構造に根ざした要因を丁寧に捉えることが、持続可能な解決につながると感じています。

私たち関西医科大学看護学部母性(助産)看護学領域の教員は、平成30年度より「新しい養育ビジョン」に基づく厚生労働省モデル事業について大阪乳児院と連携協定を締結し、心理社会的リスクを抱える女性の妊娠から育児期にわたる支援に携わってきました。ネパールでの研究や支援活動を通して見えてきた健康格差の課題は、国内における虐待予防の実装研究とも共通する要素があり、相互に関連しています。その根底には、ジェンダー平等、格差社会の縮小、女性の意思決定支援といった共通するテーマが存在し、今後もこれらを往還的に探究していきたいと考えています。

### —後輩へのメッセージをお願いします。

私の臨床疑問は、ネパール農村の暮らし中で見出しました。皆さんも、ご自身に芽生えた問いを大切に、丁寧に掘り下げてください。その小さな一歩が、やがて課題の理解につながっていきます。

#### 主な競争的研究費採択歴 (研究代表)

関西医科大学着任前 (～平成29年度)

平成20～22年度

妊娠が期待される時期にある女性のための月経を考慮に入れた禁煙支援の開発 科研費 若手研究(B) 4,290千円

平成23～25年度

思春期女子が受ける母親の喫煙のリスクと母娘への禁煙・防煙支援プログラムの開発 科研費 基盤研究(C) 4,940千円

平成27～29年度

能動喫煙・受動喫煙の累積喫煙量もたらす卵巣予備能低下と生活習慣病リスクの評価 科研費 基盤研究(C) 4,680千円

平成24～26年度

ネパール・カスキ郡デタール村の生活改善—安全な水の供給推進— JICA草の根技術協力事業 (保健学専門家リーダー) 24,984千円

平成28～令和元年9月

ネパール・カスキ郡における栄養改善プログラム JICA草の根技術協力事業 (プロジェクトマネージャー) 10,653千円

関西医科大学在職中 (平成30年4月～現在)

平成30～令和元年度

農村部のネパール人妊婦と乳児のための栄養改善プログラムの実証的評価 科研費 若手研究 4,160千円

令和3～5年度

認知行動療法を基礎とした妊婦禁煙アプリの開発と長期的禁煙継続の評価 科研費 基盤研究(C) 4,290千円

令和4～7年度

ネパール山間農村部の母子栄養改善に向けた思春期から周産期までの介入効果の検証 科研費 国際共同研究強化(B) 18,720千円

令和5～7年度

妊娠から育児期の喫煙に関連する予測因子に考慮した禁煙支援の検討 科研費 基盤研究(C) 4,550千円

令和2年度

厚生労働省「乳児院・児童養護施設の高機能化・多機能化」産前・産後母子支援モデル事業 大阪乳児院と関西医科大学連携協定締結事業 大阪府委託事業費 11,497千円

令和3年度 同上 大阪府委託事業費 10,270千円

令和4年度 同上 大阪府委託事業費 9,870千円

令和5年度 同上 大阪府委託事業費 12,870千円

略歴

平成18年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生命育成看護科学分野博士前期課程修了

平成24年 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生命育成看護科学分野博士後期課程修了

平成5年-16年 勤務助産師

平成18年4月 園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科 助手 (20年 助教)

平成21年4月 藍野大学医療保健学部看護学科 准教授

平成23年4月 森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科 准教授 (24年 教授)

平成29年4月 現職



JICA  
草の根技術協力事業  
令和元年  
村人主体のプライマ  
リヘルスケアシステム

## リハビリテーション学部 夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」

7月19日(土)(午前の部10時から、午後の部13時から)、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟4階作業療法演習室において地域の子どもたちを対象とした企画「関西医科大学で遊びを体験」が開催されました。

このイベントは、地域の中で全ての子どもが健やかに成長していける社会を目指し、地域に貢献できる取り組みとして作業療法学科の教員らが企画したものです。4回目となる今回は10家族から児童17人、ご家族15人が参加。リハビリテーション学部作業療法学科加藤寿宏教授、同松島佳苗准教授、同理学療法学科佐藤春彦教授と学生ボランティアらがサポートする中で、子どもたちは、トランポリンやボールプール、室内に設けられたブラン

コ、モビリティ遊具などさまざまな遊具に挑戦し、心身の発達に欠かせない遊びを思い切り体験しました。



トランポリンを楽しむ子どもをご家族と一緒にサポートする学生ボランティア

## 第3回作業療法学科オープンラボ

8月3日(日)13時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において、作業療法学科オープンラボが開催されました。これは医療職に興味がある高校生たちに、検査や研究などの体験を通して作業療法を知ってもらうことを目的としたイベントで、第3回となる今回は高校生と保護者ら12名が参加。リハビリテーション学部作業療法学科松島佳苗准教授が「両手の協調運動を科学する～子どもの発達から考えてみよう～」と題して、体の中心となる正中線と左右の協調運動の関係を紹介し、参加者は子どもの発達を評価する検査や、心身の発達を促す遊びなどを体験しました。



身体両側を協調させる運動を体験する参加者

## 関西ネットワークシステム定例会

7月26日(土)13時から、枚方キャンパス医学部棟の加多乃講堂や各講義室、学生食堂などにおいて、関西ネットワークシステム(KNS)第82回定例会が開催されました。KNSは、産学官民の有機的なネットワークを形成して広範な交流を図り、地域経済の活性化に寄与することをめざして設立された団体です。

医科大学では初めての開催となった当日は、齋藤貴徳産学知財社会貢献担当副学長(医学部整形外科学講座教授)のビデオメッセージによる挨拶で開会。前半では、附属病院がんセンター倉田宝保センター長による「がん治療の最先端」と題した活動紹介、大学院医学研究科イノベーション再生医学部文幸研究教授による「失った組織を取り戻す。」と題した活動紹介、イノベーション・

ベンチャー推進室産学・知的財産部門佐々木健一部門長による「関西医科大学の産学連携」と題した活動紹介が行われました。後半は60人のプレゼンターによるプレゼンテーション大会や食堂での交流会などが行われ、活発な情報交換の場となりました。



齋藤副学長による開会挨拶ビデオメッセージ



## 附属病院

## 一日看護師体験

7月25日(金) 9時から附属病院において、高校生を対象に「一日看護師体験」が開催されました。これは、看護業務を体験する機会を提供し、看護への理解を深め、将来の進路選択の参考としてもらうために行われている大阪府の事業です。この日は、枚方市内2校、大阪市内2校の高校生28名が参加しました。

参加者は2名ずつに分かれ、配属先の各部署で、患者さんの身体の清拭や車いすでの搬送、カンファレンスなどを体験。患者さんと直接触れ合う機会に緊張した表情を浮かべながらも、現場で働く看護師らに同行し、看護の現場を肌で感じていました。体験終了後のまとめの会

では、「大変だけどやりがいを感じた」「看護は素敵な仕事だと感じた」などの感想が聞かれました。



患者さんの身体清拭をする参加者

## 附属病院

## こども病棟夏祭り

8月20日(水) 18時から附属病院5階こども病棟プレイコートにおいて、「こども病棟夏祭り」が開催され、入院中の子どもたちやその保護者らが参加しました。この夏祭りは、単調な入院生活にメリハリをつけることでストレス発散の場とすること、入院中の子どもたちとその家族同士の交流を図ることなどを目的に開催されているものです。

スーパーボールすくいやヨーヨー釣り、射的、輪投げなど、スタッフが工夫を凝らして準備したさまざまなコーナーが設けられ、子どもたちが笑顔で楽しむ姿が見られました。また今年は、クリニックラウン(病院(クリニック)を訪問する道化師(クラウン))のショーが開催され、クイズやダンスなどをともに楽しむ参加者の様子が見られました。



夏祭りの様子

## 附属病院

## 腎移植患者会

9月6日(土) 14時から、附属病院13階講堂において腎移植患者会が開催され、腎移植患者さんやそのご家族など67名が参加しました。

新型コロナウイルスによる休会を挟んで6年ぶりの開催となった今回は、講演と交流会の2部で構成され、第1部では腎移植に関わるレシピエント移植コーディネーター・薬剤師・健康運動指導士・管理栄養士・精神看護専門看護師らによる講演が行われました。

続く第2部では、同じ移植を受けられた方やドナーの方とグループに分かれ、「私のおすすめの運動」や「移植したらこれができました」などのテーマで交流会が行われました。



健康運動指導士による講演の様子



## 附属病院

## 附属病院看護部徳山管理師長が府知事表彰を受賞

9月11日(木)大阪府医師会館(大阪市天王寺区)において行われた令和7年度救急医療功労者の表彰式典で、附属病院看護部徳山博美管理師長が救急医療功労者大阪府知事表彰(個人)を受賞しました。この賞は、救急医療業務で優れた功績がある個人・団体へ贈られるもので、例年「救急医療週間」(9月9日=救急の日を含む1週間)に表彰式が行われます。



## ■徳山管理師長コメント

この度は、身に余る栄えある賞を賜り、誠にありがとうございます。

私は新人の頃から20年以上救急看護に携わってきました。今回の受賞は、大勢の患者さんやご家族と出会い、命を救いたいとの一心で職種を越えた仲間たちと向き合った日々があつてこそです。救急の現場は、まさに命と向き合う場所です。私は過酷な状況であっても人が人をケアする温かい看護を心掛けてきました。今後も仲間と共に成長し、救急看護の発展に向け精進してまいります。いつもご支援くださる皆様に心より感謝申し上げます。

## 総合医療センター

## 第19回滝井セミナー ～子どもを理解するために～

7月31日(木)、8月1日(金)両日ともに10時から総合医療センター南館2階臨床講堂において、滝井セミナーが開催されました。これは、起立性調節障害や発達障害などの小児心身症の子どもたちへの理解を深め、将来を見据えた支援につなげていくことを目的に、大阪府立刀根山支援学校と協力して教育関係者を対象に行っているもので、今回が19回目の開催となります。初日のセミナーでは医学部小児科学講座寺嶋駿輝助教、同原口耕平助教による講演が、二日目の講演では同石崎優子診療教授、同石谷健人助教による講演が行われ、対面では176名、オンラインでのオンデマンド視聴では304名が聴講しました。



講演中の石崎診療教授

## 総合医療センター

## ミニ市民健康講座

8月19日(火) 15時から、旭区民センター集会室(大阪市旭区)においてミニ市民健康講座が開催され、25名が来場しました。栄養管理部田中優里子管理栄養士が「健康を守る食事と減塩の工夫」と題して講演。その後、総合医療センターの紹介と看護師による健康相談会が行われました。また本誌掲載期間中、下記日程でミニ市民健康講座が実施されました。

7月29日(火) 15時～16時 新豊里団地(大阪市東淀川区) 参加者：10名  
「臨床検査について～検査結果の見方～」

臨床検査部検体検査科 奥野 晴久 臨床検査技師

9月18日(木) 15時～16時 大道南会館(大阪市東淀川区) 参加者：24名  
「あなたの健康を守るお薬の正しい使い方」

～知っておきたい！薬と健康食品の飲み合わせ～

薬剤部 西村 悠吾 薬剤師



講演を行う田中管理栄養士

くずは病院

## 「令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり」奨励賞受賞

くずは病院関医デイケアセンター・くずはが、「令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり」の奨励賞を受賞しました。

8月27日(水)、首相官邸(東京都千代田区)にて開催された「介護職員の働きやすい職場環境づくり」表彰式において、関医デイケアセンター・くずはが内閣総理大臣表彰および厚生労働大臣表彰を受賞しました。

これは、仕事と育児・介護の両立支援、介護ロボットやICT機器の導入による業務負担の軽減、サービスの質向上、残業時間の短縮、ノーマライゼーションの推進、キャリアアップ支援など、職員が働きやすい環境づくりへの取り組みが高く評価されたものです。



表彰状を囲むスタッフ一同

卒後臨床研修センター



## レジナビフェア2025大阪～臨床・専門研修プログラム～出展

7月6日(日) 11時からインテックス大阪1・2号館(大阪市住之江区)において、「レジナビフェア2025大阪～臨床・専門研修プログラム～」が対面形式で開催され、医学生向けの臨床研修プログラムには研修医7名が、研修医向けの専門研修プログラムには、上部消化管外科、下部消化管外科、産婦人科、救急医学科、麻酔科が参加して出展しました。

本学の臨床研修ブースには医学生145名、専門研修ブースには研修医7名および医学生14名が訪れました。訪れた参加者に対して、本学所属研修医・医師らが臨床研

修プログラムおよび専門研修プログラムについて熱心に説明を行いました。



ブースの様子

## 令和8年度臨床研修医採用試験（第1・2回）、研修歯科医採用試験

8月5日(火)、8月12日(火)に「令和8年度臨床研修医採用試験」が、8月16日(土)に「令和8年度研修歯科医採用試験」が実施されました。

臨床研修医採用試験では、計50名の募集定員に対し本学出身者89名、他大学出身者73名の計162名から応募があり、154名が受験しました。また、研修歯科医採用試験では、2名の募集定員に対し7名の応募があり、7名が受験しました。



採用試験の様子



## 第1回KMUナースの集い

7月19日(土) 14時から枚方キャンパス看護学部棟1階遠隔講義室において、看護キャリア開発センター看護師就業・復職支援部門主催「第1回KMUナースの集い」が開催されました。これは法人内の看護師が生き生きと働き続けるための交流を目的としたもので、17名の看護師たちが参加。今回は先輩看護師の附属病院看護部林真央看護師と総合医療センター看護部千葉捺未看護師から、仕事への向き合い方やリフレッシュ方法について、実際の経験を交えたお話がありました。その後の交流会では互いの部署の状況を共有したり、先輩看護師たちのアドバイスを受けたりするなど、和やかな集いとなりました。



交流会の様子

## オール女性医師キャリアセンター

## 第3回医師キャリア支援のための交流会

7月4日(金) 17時から、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂において、第3回医師キャリア支援のための交流会が開催されました。これはオール女性医師キャリアセンター主催の、医師のキャリアパスやワークライフバランスについて考えることを目的としたイベントで、女子のみならず男子も含む学生、医師や大学関係者18名(オンライン参加含む)が参加しました。医学部放射線科学講座河野由美子講師の司会の下、「パパママ医師の等身大キャリア会議～制度を使ってもっと働きやすく！活躍する医師の話を聴こう～」と題して、育休を経験した4人の医師がパネリストとして登壇。専門医取得などキ

ャリア形成との両立、職場や同僚の理解、育休中の家庭での様子など、リアルな声が届けられました。



自身の育休経験を紹介するパネリスト

## 香里病院に予防医療センターを開設

関西医科大学香里病院に、新たに予防医療センターを開設いたしました。病気を早く見つけて対処することは、健康寿命を延ばす第一歩です。病気の予防と早期発見のため、大学病院の強みを活かした安心・安全な人間ドックを提供いたします。

### コース一覧

- 人間ドック標準コース
- 各種オプション検査を選択可能







## 学会賞受賞学生と木梨学長の座談会を開催

10月2日(木) 17時15分から枚方キャンパス医学部棟13階第一応接室において、医学部生2名と木梨達雄学長の座談会が開催されました。初めてとなる今回は、第36回日本夜尿症・尿失禁学会学術集会で最優秀奨励賞を受賞した伊藤綾華さん(医学部6学年)と第7回日本メディカルAI学会学術集会で優秀ポスター演題賞を受賞した溝上秀明さん(医学部5学年)が参加しました。2人はSA (Student Assistant)として研究に参加しました。座談会では、木梨学長が自身の経験を振り返ってアドバイスをする場面などがあり、和やかな雰囲気うちに終了しました。



木梨学長(中央)、伊藤さん(左)、溝上さん(右)

### 伊藤 綾華さん

#### 【受賞した研究テーマ】

小児期の夜尿症は若年成人期の過活動膀胱のリスクである

#### 【概要】

小児期の夜尿症の既往が若年成人期の過活動膀胱(OAB)のリスクとなるか、本学医学部・看護学部の学生を対象としたアンケート調査で検討した。夜尿症の既往を有する者は、既往のない者に比べ有意にOABの有病率が高く(13.6% vs 3.2%)、オッズ比は4.7( $p < 0.001$ )であった。夜尿症は思春期までに治癒しても、排尿筋過活動などの素因が残存し、将来のOAB発症に繋がる可能性が示唆された。

指導：医学部小児科学講座 赤川 翔平 講師

### 溝上 秀明さん

#### 【受賞した研究テーマ】

EfficientNet-B3ベースの深層学習モデルを用いた乳頭形態画像からの胆管力ニューレーション難度予測技術の検討

#### 【概要】

ERCP<sup>\*1</sup>における胆管力ニューレーションの難易度を術前に予測するため、乳頭画像を対象に深層学習モデルを構築した。EfficientNet-B3<sup>\*2</sup>が高い性能を示し、Grad-CAM<sup>\*3</sup>解析では乳頭形態に加え周囲粘膜や憩室も注目点であることが示唆された。AIによる評価は術前難度予測や適切な手技移行判断に利用することが考えられるため今後の臨床現場での活用が期待される。

指導：附属生命医学研究所ゲノム医学部門 日笠 幸一郎 研究所教授

※1 内視鏡を使って胆管・膵管を造影する検査 ※2 Google の研究者によって公開された、高精度と計算効率のバランスに優れた画像認識モデルの一種  
※3 CAM (Class Activation Mapping)を拡張した手法で、深層学習モデルが注目した領域を可視化し、判断根拠の解釈に用いられる。

## 自分の中で響くものを大切に。あらゆる環境に身を置き、成長を。

**学 長**：まずはお二人とも、おめでとうございます。溝上さんは難しい研究をされていますね。どんなことがわかりましたか？

**溝上さん**：AIを使用することで、手技の難易度が事前に画像から判断できることです。挑戦的なテーマとして評価され、賞をいただけたのだと思います。

**学 長**：機械学習を用いた研究は今後も発展が期待できますね。一方で、伊藤さんは非常に臨床らしい研究ですね。きっかけはどんなものでしたか？

**伊藤さん**：指導医の先生からの紹介です。現在は、介入研究のお手伝いもしており、夜尿症・過活動膀胱の新たな治療法に結びつけたいと思っています。

**学 長**：夜尿症と過活動膀胱という切り口は面白いですね。研究は、原因と結果をどのように関連づけられるかを考えることが大切です。

**伊藤さん**：木梨学長が研究の道に進もうと思われたきっかけは何だったのでしょうか？

**学 長**：研究の面白さに魅了されたからです。医学部を卒業し、医師の資格を得たのですが、研究を続けたくてこの道を

選びました。学生のうちは、なるべく多くの経験をして自分自身が面白いと思うことを見つけてください。それが進む道につながるはずです。

**溝上さん**：自分の今後のキャリアについて悩むことがあります。人生の分岐点や意思決定の際に木梨学長が重視されていたことがあれば教えてください。

**学 長**：大事な決断は自分です。1つとして同じ人生はないので、他人からのアドバイスが役に立たないこともあります。そして、他人と比較はしないこと。自分のために人生を歩んでください。

**溝上さん**：ありがとうございます！

**学 長**：皆さんには、同じ場所に居続けず、さまざまな環境へ出て行ってほしいと思います。居心地のいい場所からあえて不自由な環境に身を置くことのほうが新たな成長のきっかけを得ることができます。例えば海外留学などで自分の成長を実感してください。

**伊藤さん**：わかりました！

**学 長**：そうして自分なりの経験をたくさん積むことで、大切なものが見えてくるはずです。





## 学会賞等受賞情報

令和7年6月～9月の学会賞受賞者等を紹介します。

## BEST POSTER AWARD

医学部内科学第三講座 島谷 昌明 診療教授

■テーマ Evaluation of a New Endoscopic Approach Using a Field-Securing Gel for Stenosis at Pancreaticojejunal Anastomosis

■授与団体 International Digestive Endoscopy Network

■コメント この度は当院で考案したGel Immersion Endoscopyを応用した新規内視鏡治療法を発表させていただき、Awardを受賞することができたことを大変嬉しく思っております。この新規内視鏡治療法が日本のみならず世界中に広げられるように、今後も精進してまいりたいと思います。今後とも宜しく願い申し上げます。



## 日本膵臓学会 第19回 国際優秀演題賞

医学部内科学第三講座 豊永 啓翔 助教

■テーマ Gel Immersion DB-ERP: Evaluation of a New Endoscopic Approach Using a Field-Securing Gel for Stenosis at Pancreaticojejunal Anastomosis After Pancreaticoduodenectomy

■授与団体 第56回日本膵臓大会

■コメント 本賞は、日本膵臓学会が年1度選考を行い、国際学会で発表した演題の内、膵臓病学の発展に寄与する優秀な演題に対して授与される賞です。日本、米国、国際膵臓学会共同国際学会(APA/JPS/CAP/IAP Annual meeting)において、「治療難易度の高い膵管空腸吻合部狭窄症例に対するGel immersion techniqueを用いたバルーン内視鏡下ERCPの有用性」についてOral presentationを行った内容に対して授与いただくことができました。諸外国と異なり、内視鏡分野では日本がリードする領域もあり、日本独自の視点から新規治療の成績を公表していくことの重要性を感じました。この度、ご指導して発表の機会をいただいた島谷昌明教授に厚く御礼申し上げます。



## Pancreas Cup of Endoscopy Second Prize

医学部内科学第三講座 豊永 啓翔 助教

■テーマ Endoscopic troubleshooting for pancreatic diseases in surgically altered anatomy

■授与団体 第56回日本膵臓大会

■コメント 第56回日本膵臓学会において、International Sessionで術後再建腸管症例の膵疾患に対する内視鏡治療に関してOral presentationを行いました。国内外招聘医師の評価者6名の投票により優秀演題が決定される形式であり、Second prizeを受賞することができました。難易度の高い術後再建腸管症例に対するさまざまなアプローチ方法、Trouble shootingについて、イラストや動画を交えてPresentationを行ったことを評価いただけたものと理解しております。この場をお借りして、総合医療センター消化器肝臓内科の皆様および内視鏡センター、病棟、外来スタッフの方々に深く感謝申し上げます。

## Young Investigator Awards

医学部内科学第三講座 豊永 啓翔 助教

■テーマ Gel immersion technique in pancreatobiliary field

■授与団体 The 1st JGES International

■コメント 日本消化器内視鏡学会が主導で開催する国際学会 JGES international 第一回において、Young Investigator Awardsを受賞しました。内視鏡視野確保用ゲルを用いた新しい手技 Gel immersion techniqueは消化管内視鏡領域で広く使用されているものの、胆膵領域ではまだ限られた施設でしか使用されておりません。総合医療センターではさまざまな検査・治療・場面でGel immersion techniqueを応用しており、その有用性を体系的にPresentationを行いました。本手技は特に日本で開発されたものであり、その新しい手技のさらなる別の応用方法を発信することが評価されたのではないかと思います。これからも日本の内視鏡診療の発展のため、すこしでも患者さんにより治療を提供できるよう精進してまいります。

## 学会奨励賞

医学部内科学第三講座 高山 昇之 病院助教

■テーマ 膵原発のpure hepatoid carcinomaの1例

■授与団体 第56回日本膵臓学会大会

■コメント この度は令和7年度日本膵臓学会奨励賞に選出いただき誠に嬉しく思います。本論文では、膵原発のpure hepatoid carcinoma(HC)という極めてまれな症例経験から、免疫染色による詳細な検討を行いました。さらに、本症例を含む既報例を集積し、pure HCと他の膵腫瘍成分を併せ持つcombined HCの臨床像を比較考察いたしました。今回の執筆にあたって、指導医である池浦司先生、自治医科大学福岡敬宜先生をはじめ、ご指導いただいた多くの先生方に心より感謝申し上げます。



## 最優秀演題賞

医学部呼吸器腫瘍内科学講座 荒木 啓吾 任期付助教

■テーマ 切除不能・根治照射不能肺扁平上皮癌に対してChemo-IO導入後にサルベージ手術で病理学的完全奏効が確認された1例

■授与団体 第122回日本肺癌学会関西支部学術集会

■コメント 本症例は切除不能肺扁平上皮癌に対しChemo-IO導入後にサルベージ手術で病理学的完全奏効を得た極めて臨床的意義の大きい一例です。今後は本治療戦略がより多くの患者さんに適応拡大され、長期予後改善につながることを期待します。ご指導いただいた諸先生方、ともに診療に尽力した医局員の皆様に深く感謝申し上げます。







## 第7回日本メディカルAI学会奨励賞-JMAI AWARD：優秀ポスター演題賞

附属生命医学研究所ゲノム解析部門(医学部5学年) 溝上 秀明 さん

■テーマ EfficientNetB3ベースの深層学習モデルを用いた乳頭形態画像からの胆管カニュレーション難度予測技術の検討

■授与団体 第7回日本メディカルAI学会学術集会

■コメント この度の受賞は、附属生命医学研究所ゲノム解析部門 日笠教授、安河内講師、ならびに内科学第三講座 池浦准教授のご指導・ご協力の賜物であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本研究では、ERCPにおける胆管カニュレーションの難易度を、主乳頭画像からAIを用いて事前に予測できる可能性を示唆いたしました。今後さらなる検証を通じて、臨床現場での活用に貢献できることを期待しております。



## 2024年度日本地域看護学会 優秀論文賞

看護学部地域看護学領域 大川 聡子 教授

■テーマ 10代初産母親の逆境的小児期体験(ACE)の特徴と育児中の心身の健康、経済的状況との関連

■授与団体 日本地域看護学会

■コメント このたびは、2024年度日本地域看護学会優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究はパス解析を用い、18歳までの逆境的小児期体験(ACE)が育児中の10代母親の自尊心を経由して主観的健康感に影響を及ぼすことを示す内容でした。調査にご協力いただいたお母様、分析にあたり、臨床研究相談会において度々ご助言いただきました医学部衛生・公衆衛生学講座主任教授の甲田先生に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



## 優秀演題賞

看護学部地域看護学領域 海原 律子 助教

■テーマ 社会的孤立の状態にある高齢者の理解と孤立した生き方を尊重した支援の検討

■授与団体 日本地域看護学会第28回学術集会

■コメント 行政の保健師として勤めていた頃「これでよかったのか」と悩むことがありました。近年、注目されている「社会的孤立」の高齢者もその悩ましい一事案で、教員になってからは、地域で生活する高齢者の研究を続けています。ネガティブに捉えられがちな彼らの生の声を聴くことで、自分なりのペースで限定した人との気楽な関わりが、安定した感情を引き出す事の示唆を得ました。今後も対象者理解を踏まえた研究を継続していく所存です。



## 2025年度研究助成事業 看護学研究奨励賞

看護学部慢性疾患看護学領域 水野 光 助教

■テーマ Development and Examination of an Educational Program Combining E-Learning and Face-to-Face Training That Nurtures Inflammatory Bowel Disease Nurse Specialists

■授与団体 一般社団法人日本私立看護系大学協会

■コメント この度、私が受賞した“Development and Examination of an Educational Program Combining E-Learning and Face-to-Face Training That Nurtures Inflammatory Bowel Disease Nurse Specialists”は、炎症性腸疾患(IBD)専門家看護師を育成する教育プログラムの開発と評価をまとめたものです。IBDの治療が日進月歩であり、患者数が増加している背景があるにも関わらず、IBD看護の専門家が不足している現状を踏まえ、このような研究に着手してきました。受賞を大きな励みとし、今後もIBD看護の発展に寄与できるよう研究に精進して参ります。



## メディカルスタッフ賞 最優秀演題

リハビリテーション学部理学療法学科 福島 卓矢 助教

■テーマ 術前補助化学療法中の舌圧低下に影響する因子の検討

■授与団体 第79回日本食道学会学術集会

■コメント この度は、「食道がん術前補助化学療法中の舌圧低下に関連する要因」で栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。本研究は、食道がん術後誤嚥性肺炎予防のための基礎的検討です。リハビリテーション学部の中野教授、医学部上部消化管外科学講座の山崎教授はじめ、ご指導いただいた先生方のご支援の賜物であり、深く御礼申し上げます。今後は舌圧介入研究へと発展させ、患者さんのアウトカム向上に貢献できるよう、一層精進してまいります。



## 優秀演題賞

附属病院健康科学センター 小田垣 福子 さん

■テーマ 心臓リハビリテーションでサルコペニア肥満が改善した一例

■授与団体 第31回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

■コメント この度、優秀演題賞をいただき大変嬉しく思います。体組成の改善や心疾患予防だけでなく、あらゆる治療や疾患予防には多職種で関わり連携することが重要となります。当センターでは多職種連携に力を入れており、そのチーム力を優秀演題賞という形で評価いただけたことは、大変励みになりました。今回の経験を生かし、今後も患者さんのよりよい生活のために尽力します。



## 本学卒業生が国内最高齢に

本学卒業生の賀川滋子(カガワシゲコ)先生が7月29日(火)に国内最高齢となりました。賀川先生は、明治44(1911)年5月28日生まれで、本学の前身である大阪女子高等医学専門学校の2期生です。昭和9(1934)年3月卒業後、産婦人科医として86歳まで地域医療に貢献されました。



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に令和7年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

## ■ テレビ等

医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ 「旬感LIVEとれたてっ！」 (8月18日)	宮下診療教授がスタジオ出演し、新型コロナウイルス「ニンパス」の症状の特徴や重症化リスクなどについて解説しました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	TBSラジオ 「大島由香里BRAND-NEW MORNING」 (8月27日)	宮下診療教授が出演し、新型コロナウイルスの変異株である「ニンパス」について症状や治療法、予防法などを解説しました。
附属光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	日本テレビ 「カズレーザと学ぶ。」 (9月2日)	小林所長がスタジオ出演し、光免疫療法の最新情報について詳しく解説しました。
関西医科大学	NHK 「クローズアップ現代」 (9月16日)	本学2期卒業生で日本最高齢の賀川滋子先生に関する放送中で本学提供資料を基にした内容が放送されました。
医学部産科学・婦人科学講座 岡田 英孝 教授	ABCラジオ 「私からだ 上手につきあえる毎日を。」 (9月20日)	岡田教授がゲスト出演し、女性の健康や更年期をテーマに、更年期障害に関連する女性ホルモンや更年期症状の治療方法について解説しました。
医学部産科学・婦人科学講座 岡田 英孝 教授	ABCラジオ 「私からだ 上手につきあえる毎日を。」 (9月27日)	岡田教授がゲスト出演し、女性の健康や更年期をテーマに、セルフケアの方法や、女性ホルモンに似た働きを持つ成分エクオールが持つ効果などを解説したほか更年期で不調を感じている方・これから更年期を迎える方へのメッセージを述べました。

## ■ WEBメディア等

附属病院新薬開発科 清水 俊雄 センター教授	東洋経済ONLINE (7月1日)	がんの治療の新たな可能性として注目されている「抗体薬物複合体(ADC)」に関する記事で、清水センター教授によるADC開発の経緯や課題についてなどの解説内容が掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	メディカルトリビューン (7月2日)	加藤教授が第121回日本精神神経学会(6月19～21日)で、新規抗うつ薬zuranoloneがうつ症状に対し早期改善効果を示し、単剤投与を反復した場合でも効果の減弱は認められなかったと発表したことが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	共同通信 (7月7日)	訪問看護中にうけたカスタマーハラスメントを取り上げた記事で、現状や支援策について述べた三木教授のコメントが掲載されました。
附属病院スポーツ医学センター 山門 浩太郎 センター教授	QLifePro (7月24日)	山門センター教授らによる縫合不能な腱板断裂に対する低侵襲で新しい関節鏡視下小胸筋移行術の成績を調査した研究で、同術式が肩の痛みと機能の改善に有意であると明らかにしたことが掲載されました。
医工学センター ジュセッパ ベッツォッティ 学長特命教授	日経バイオテック (8月6日)	本学とYKK株式会社がオーラルヘルスケア分野に関する共同研究に着手したことが掲載されました。
医学部精神神経科学講座 加藤 正樹 教授	メディカルトリビューン (8月6日)	加藤教授が実務的な統括を務める「うつ病診療ガイドライン2025」について、第22回日本うつ病学会(7月11～12日)で改訂の経緯、従来版との違いや2025年版に込めた思いを概説したことが紹介されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	中国新聞 (8月10日)	「バイシエントハラスメント」を取り上げた記事で、国や自治体を含めて業界を挙げて対策を強化すべきとの三木教授のコメントが掲載されました。
附属病院スポーツ医学センター 山門 浩太郎 センター教授	QLifePro (8月15日)	山門センター教授らによる研究で、関節鏡下腱板修復術後の再断裂に高脂血症と治療薬スタチンはともに無関連であること、スタチン種類別で差があることを明らかにした旨が掲載されました。
医学部肝臓外科学講座 小坂 久 講師	QLifePro (8月26日)	小坂講師らの研究グループが、肝胆道がんを有する高齢患者に対する電気筋刺激装置を用いた在宅セルフリハビリテーションの有効性を確認したことが掲載されました。
医学部呼吸器外科学講座 齊藤 朋人 講師	VJ Oncology (9月12日)	齊藤講師が、VJ Oncology社のインタビューを受け、肺がん手術の患者選択や胸部外科医の減少に対する取り組み等について話した動画が公開されました。
医学部心療内科学講座 連尾 英明 教授	m3.com (9月17日)	附属病院緩和ケアセンターの特徴やシンポジウムでの講演内容について、連尾教授がインタビューを受けたことが掲載されました。
医学部心療内科学講座 連尾 英明 教授	m3.com (9月24日)	連尾教授がインタビューを受け、心療内科学講座へ入局を決めた理由や緩和ケアセンターにおける診療の今後の展望などについて語った内容が掲載されました。
医学部衛生・公衆衛生学講座 藤田 裕規 准教授	日経Gooday (9月26日)	藤田准教授らによる高齢男性を対象とした調査で、納豆を習慣的に週に数パック摂取する男性では摂取しない男性より40%全死リスクが低いと明らかにした旨が掲載されました。

## ■ 新聞・雑誌等

附属光免疫医学研究所 山下 敏夫 理事長 木梨 達雄 学長 小林 久隆 所長 医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 八木 正夫 教授 藤澤 琢郎 講師	ドクターズアテンション 2025年7月号 (7月1日)	光免疫医学研究所と島津製作所が実施する「光免疫療法」の世界初の臨床研究について、記者会見で発表した研究概要のほか山下理事長、小林所長のコメントが掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 朝刊 (7月2日)	医療現場でのカスタマーハラスメントを取り上げた記事で、三木教授が「業界全体で意識を変え、現場のSOSに耳を傾ける必要がある」と述べたコメントなどが掲載されました。
総合医療センター	河内新聞 (7月10日)	6月21日(土)鶴見区民センターで開催された市民健康講座の内容が写真付きで掲載されました。
看護学部精神看護学領域 三木 明子 教授	読売新聞 夕刊 (8月19日)	バウハラによる精神疾患発症の問題を取り上げた記事で、バウハラ行為は行為者がいかなる役職であっても会社全体として厳しく対応すべきとの三木教授のコメントが掲載されました。
医学部内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	読売新聞 朝刊 (9月4日)	宮下診療教授が取材を受け、本学のチームが大阪府内の医療機関を受診した患者の耐性菌を調べたところ検出割合が6割を占めたという内容が掲載されました。
総合医療センター	河内新聞 (9月25日)	9月6日(土)鶴見区民センターで開催された市民健康講座の内容が写真付きで掲載されました。
総合医療センター 中森 靖 副病院長	週刊病院新聞 (9月25日)	中森副病院長がインタビューを受け、Hybrid ER発案の経緯や今後の展望についての内容が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

今号の表紙を飾ったのは、大阪・関西万博のために飛来したブルーインパルスが、本学の関医タワー上空を飛んでいる写真です。

枚方市内でも抜きんで高い関医タワーの傍でブルーインパルスが空を舞う姿は、すごく迫力がありますね。(Y)

## 関西医科大学広報 Vol.71

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>

E-mail: [kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp)

令和7年11月7日(金)発行